

— 2015年度同窓会主要行事に向けて —

京大合唱団同窓会会長 松井 三郎 (S41)

代表幹事 望月 勝房 (S43)

この同窓会通信第22号を同窓会会員の皆様にお届け出来る頃には、本年も暦年ベースでは残す所1カ月余となります。就きましては、来年2015年度の京大合唱団同窓会としての主要行事動向をご紹介申し上げる次第です。

■ 同窓会合唱団・東京洛友ハーモニーの東京演奏会開催

同窓会合唱団は2003年東京で最初の演奏会を開催し、その後2年毎に連続して5回京都で演奏会を催して来ました。又2009年10月に設立された東京洛友ハーモニーは東京都合唱祭に出演するとともに、2011年、2013年と同窓会合唱団の京都演奏会に参加して来ました。昨年2013年9月7日(土)の京都コンサートホールでの「同窓会合唱団・東京洛友ハーモニー演奏会」以後に取り組んで来ている両団の新しいレパートリー曲の演奏会を、東京洛友ハーモニーと一緒に来年度後半に東京で開催することが計画されています。

■ 同窓会総会の開催

この東京演奏会開催時に、京大合唱団同窓会の総会の開催が予定されています。京大合唱団同窓会規約で同窓会の総会は4年毎の開催が定められ、前回の同窓会総会は2011年9月3日に京都で開催された「京大合唱団創立80周年記念事業演奏会」後に、「京都コンサートホール小ホール」で開催されていますので、4年後に当たる来年の2015年度が次回同窓会総会の開催年となります。「総会」への同窓会員の参加状況を高める為に「総会」は従来、演奏会と一体で開催するのが適切と考えられ、実施されて来ています。従って、来年度後半頃には、同窓会合唱団、東京洛友ハーモニーによる東京演奏会が計画されていますので、その東京演奏会と一体となって同窓会総会を開催する予定です。

■ 新学生集会所竣工動向関連

学生集会所は一昨年の2013年9月解体撤去工事に入り、11月に跡地の埋蔵文化財調査が始まり、2014年2月に埋蔵文化財調査が終了し、本年5月に新学生集会所建設工事がスタートしました。竣工は来年2015年6月頃が予定されています。しかし竣工時期は確実に想定出来ず、又新学生集会所運用基準が従来と大きく変わる可能性も高く、更に外装工事としては竣工に到っても、新学生集会所内の新京大合唱団BOXの内装工事、又現団が必要・希望する新京大合唱団BOX内の什器、収納設備、事務機器、備品、合唱練習用電子機器等の確保に、同窓会としても十分経済的に支援して行く必要があり、その為には、大学当局と現団と十分摺合わせて、新学生集会所内の京大合唱団BOX内の整備を進めて行く必要があります。又これまで京都大学の当局からは、京大合唱団を対象とした内覧会開催の内諾を得てはいますが、かかる内覧会の開催については、同様に今後大学当局の意向や工事の進捗状況、現団の意向等をお聞きしながら、今後検討して行くことになります。

■ 東北被災地支援活動

東北被災地支援活動については、全国の同窓会員有志21名の参加によるものではありませんでしたが、昨年6月に、被災地訪問(下見ツアー)として実現し、その後下見ツアー参加者は、次回東北被災地を2年後位の来年2015年の6月頃に再訪問することをイメージし、更に本年に入って、次回東北被災地訪問に、新たに少なからずの会員が有志として参加を表明されました。係る有志の増加は素晴らしいことではありますが、「京大合唱団同窓会全体として考えた時に、次回東北被災地訪問は下見ツアーとは状況が異なり、京大合唱団同窓会として、現地で演奏会に出演する以上は、参加者がしっかり事前練習が出来る環境作りをしてから臨むべきで、時期は来年6月にこだわるべきではない」との有力な意見も有ります。従って、本件については同窓会として引き続き前向きに検討して参る次第です。

現団のページ

京大合唱団 第85回定期演奏会案内

京大合唱団総務 和田 直樹、山野 真奈

定期演奏会も今回で第85回となりました。女声ステージは民謡のアラカルトステージで、夏のジョイントコンサートと一部曲を入れ替え、新鮮な演奏をお届けします。続いての男声ステージは、すべてピアノ演奏のついた骨太な3曲からなる曲集を演奏し、曲数は少ないながら密度の濃いステージとなっています。最後の混声ステージは、アメリカの現代作曲家による合唱曲のアラカルトステージとなっており、現代らしい和音の多い、これまでとは違う雰囲気味わえます。それぞれ特色ある3ステージをお楽しみください。ピアニストに木下亜子先生をお招きしお送りする今回の演奏会、是非いらっしやってください。

日時：2014年12月7日(日) 開場 15:00 開演 15:30

会場：文化パルク城陽グラムホール 入場料 500円

- ◆ 1st stage 『間宮芳生 わらべうた・民謡曲選』
曲目：「おてだま唄」「さんさい踊り」「田の草取り唄」「おぼこ祝い唄」
指揮：手塚沙英子、ピアノ：木下亜子、演奏：京都フラウエンコール
- ◆ 2nd stage 『男声合唱曲集「朝の頌歌」』作詩：大岡信、作曲：木下牧子
指揮：加須屋春樹、ピアノ：木下亜子、演奏：京都大学男声合唱団
- ◆ 3rd stage 『現代アメリカ合唱曲選』
曲目：「Love on Fire」「Sure On This Shining Night」「Leonardo Dreams of His Flying Machine」
「All That Hath Life & Breath Praise Ye the Lord!」
指揮：中村和輝、ピアノ：木下亜子、演奏：京大合唱団

京都大学男声合唱団 中期演奏会を聴いて

山下 千之(S44)

2014年京都大学男声合唱団中期演奏会は、8月16日(土)長岡京記念文化会館で、「四心壯謳」と銘打って四大学 Joint Concert 2014 が開催されました。四大学の趣向を凝らして若者が謳(うた)うという意味ですかね……。レバは、筑波大学男声合唱団面ネルコール「Barbershop Songs」、九州大学男声合唱団コールアカデミー「ロシアの歌」、合同ステージ「Soul of America」、横浜国立大学グリークラブ「信長貴富編曲ジブリ名曲集」、京都大学男声合唱団が作詩星野富弘、作曲千原英喜の男声合唱組曲「明日へ続く道」でした。各団ともに、それぞれ特色が出て興味深く、合同ステージは横田諭氏の客演指揮で躍動感・若者らしさ一杯だった。現団は練習期間が短かった筈だが昨年より格段に練度が上がった演奏を聴かせてくれた。五山の送り火と日程がぶつかったため聴衆が少ないのではと心配したが、予想外にまずまずの入りでホッとしました。



☺ 学生集会所メモリアルマグカップの会員への頒布(有料)のご案内とお願い ☺

前回お届けした「同窓会通信」第21号の6頁でご紹介しました様に、同窓会は本年3月卒団の現団卒団生に、同窓会活動を目に見える形で知って頂き、同窓会への入会を願って、卒団記念マグカップをプレゼントしました。お蔭様で卒団生、そして現団の皆様からも大好評を博しました。この記念カップ及びその側面に焼き付けられているデッサンは下記の如くで、「京大合唱団同窓会」の名前も入れています。所で、旧学生集会所で活躍された全ての会員様にとっても、懐かしい学生集会所メモリアルカップとなっていて、有料でも良いから希望会員に広く頒布願いたいとの希望が多数寄せられています。そこで、関西・関東の同窓会員が多数活動されている合唱団・団体等の皆様で手渡し可能な会員の皆様には、割れ物だけに同窓会が直接1個2,000円の前払いで年内又は来年早々にお渡しし、それ以外の会員や遠隔地の会員の皆様には、次回同窓会通信送付時に同封する記念カップ申込み用の「払い込み票」による入金確認により、専門業者経由特別梱包で送付させて頂く事を計画致しました。係る送付の場合、送料は近距離でも税込で1個、864円かかりますが、会員間の距離格差等を解消したいとの思いから、今回は送料込みで一律に1個2000円とさせて頂く予定です。このマグカップの原価は700円位ですが、皆様に1個当たり1律2,000円で直接渡し又は送付させて頂き、差額は先ず送料負担等を含んだ一連の頒布作業に掛る経費に充当し、残額は現団への支援や同窓会活動への支援の為の寄付扱いとさせて頂きたく、宜しくご了承の程お願い申し上げます。

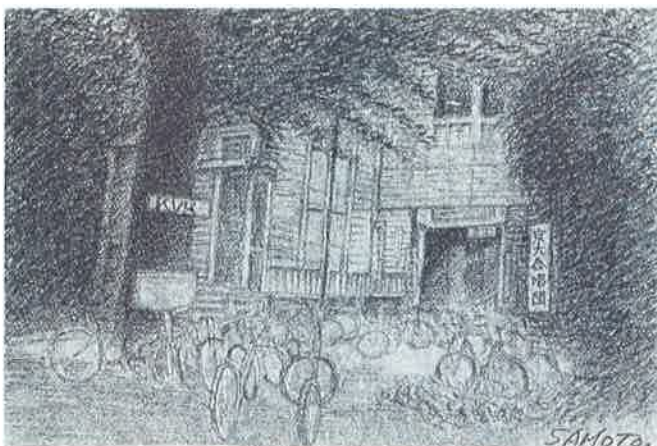


(代表幹事) 望月 勝房(S43)

☺ 新学生集会所建設など吉田南構内整備計画状況 ☺

2014年1月6日新年名刺交換会での総長挨拶の内容、9月4日第9回京都大学東京フォーラムにおける大学事務局との打ち合わせによりつぎの通りお知らせします。

2009年4月に策定した「吉田最南部地区再整備基本方針」に基づき事業計画を進めてきた。その結果、まず海外留学生を含め国際交流の拠点に位置付けた吉田国際交流会館が完成し機能を始めた。つぎに京大オケBox跡地については、埋蔵文化財調査を経て、新吉田寮A棟の建設が具体化し、2013年12月着工、2014年12月竣工の計画で進んでいる。隣りに位置する旧吉田寮食堂については、現存する最古の国立大学関連施設(1889年の竣工から124年)として保存の声があり、取り壊すことをやめ耐震補強工事を行って存置することとした。これら2つの建物は将来連結される。また楽友会館に対して一部改修工事を行った。学生集会所の新設については、西部講堂内に代替施設を設置し



クラブ・サークルの活動継続を保証するとともに、解体工事、埋蔵文化財調査を経て作業がスタートした。現在地下の2つの階の工事が本格化している。事業入札時の工期からは遅れているが、現場の工程表ベースで2014年2月着工、2015年6月竣工の計画で進んでいる。この後、現吉田寮に替わる新吉田寮B棟建設、また吉田キャンパス内の幹線道路を近衛通りまで延長する計画を具体化することになる。

(広報・企画担当) 石動 正和(S48)

関東地区の同窓会活動と会員メッセージ

✿ 京大合唱団への想い

このたび、3年先輩の高須氏(S31)の後を受け、シニア同窓会の世話人代表を引き受けることになりました。支部会員諸兄姉のご理解、ご支援を頼りと仰ぎつつ、何とか任を全うすべく願っております。年齢をとってからの同窓会というのは、どうしても他の年代、特に若手諸兄姉にはピンとこない追憶談になってしまう傾向が否めないのですが、出来るだけ意識を共有できるものにすべく努めたいと存じます。

京大に入学前の私は、ほとんど合唱とは縁のない人間でした。学生自治会(同学会)主催の入学生歓迎会や入学式での男声合唱団の重厚なハーモニーに感動し、さらに混声合唱練習の美しい女性陣に圧倒され、一も二もなく父親の勧めるオーケストラを蹴って、合唱団に飛び込んだわけです。爾来7年余の長きに亘り、必ずしも清潔と言えないあの部室に、大学の授業よりはるかに熱心に通い詰めることになりました。自らの実力のなさを省みず、混声のサブコンまで引き受けたのですから、今さらながら穴に入りたい心境になります。挙句、役員としてペアを組んだ女声と公私混同で仲良くなり、楽友会館でわずか250円の会費で超満員の参会者に4時間も付き合わせるという、当時でも常識を超えた無茶な団内結婚式をやらせてもらい、今日に至ったわけで、このような顛末だけでも、今回の支部代表をお断りできなかった理由をご理解頂けるのではないのでしょうか。

学生のクラブというものは、私見ですが、「専門性」と「サークル性」という二つの側面をもっていると思います。部員各個がその二面性をさまざまな割合で抛りどころとしていいますが、少なくとも当時の京大合唱団はこの二面性を融合させる理想のもとに集まった集団だったと思います。「考える(そして行動する)合唱団に」という合言葉を思い出します。私自身という「サークル性」寄りだったという気がしますが、合唱団はいささか背伸び気味ながら、真摯に語り合い、日々の練習で我々の音楽を作り上げるべく励み、そして合唱の楽しさをメッセージとして人々に発信する場、そんな雰囲気だったと思います。

高校卒業近くまで外地で暮らし、精神的にも社会的にも同年輩の仲間に比べ未熟な私にとって、京大合唱団は精神的、社会的に生涯の転機をもたらした場であったと感謝しつつ独りよがりの感想を述べさせていただきます。

小林 修平(S36)

✿ 東京洛友ハーモニーと共に

忘れていた「歌うこと」がいつしか生活の中心になったのは5年前。東京洛友ハーモニーとの出会いからでした。初回は不安でいっぱいでした。しかしいざ練習が始まると…。歌の力ってすごいですね。練習を終える頃には、歌えることの喜びをかみしめていました。現在練習中の「季節へのまなざし」は、学生時代にも歌ったことのある思い出の曲。当時とは違い、年齢を重ねてきた今だからこそできる表現を楽しんでいます。今では活動の場も複数に広がり、そこでできた人とのつながりはとても大きな財産となっています。改めて歌うことがほんとうに好きなのだと実感する毎日。今後も歌い続けることで毎日を元気に楽しく過ごしていきたいと思っております。

吉田 夏代(H2)

✿ 「東京洛友ハーモニー」2014年東京都合唱祭に出演

関東地区の同窓生を中心にした合唱団、東京洛友ハーモニーが、7月13日に東京都合唱祭に参加しました(4回目の出演)。2012年からは荻久保和明作曲「季節へのまなざし」に取り組んできましたが、今年は3年目で、「2. のびる」を演奏しました。なかなかの難曲で、月一回の練習で当日までどうなるかと思っていましたが、本番ではハーモニーもしっかりと響き、先生方の講評も大変好意的でした。京大合唱団の層の厚さとそれぞれの人生経験の中での感受性を生かしたハーモニーへのこだわりを改めて感じました。毎回の練習には、遠隔地からの団員も参加し、若い世代の団員も増えており、各パートのバランスも、少しずつ改善されています。親子以上の年齢の差のある団員が、それぞれの世代での感受性を生かし一体感を持って歌える歓びを強く感じています。

阿波村 稔(S47)

♪ 同窓会合唱団—名古屋男声合唱団演奏会に出演 ♪



名古屋男声との演奏会

9月20日「名古屋男声合唱団創立10周年記念演奏会」に出演しました。名古屋大学豊田講堂に1,200人の大聴衆を集めた演奏会を開催できました。混声・女声・男声で参加しましたが、男声は名古屋男声との80人での合同演奏「多田武彦作品」となり、各ステージともいい演奏会となりました。アンコールでは3階席から女声が「天使の声」のように歌う取り組みもなされ、両団員・聴衆が一体となり楽しむことができました。打上げでは数十年の両団の間の歴史も披露され、楽しく時間を持てました。京都との往復には貸切バスを使用し、団員どうしの懇親が深まる一日となりました。 杉本 修(S47)

名古屋で懐かしい顔と再会

名古屋男声合唱団の演奏会にお誘いを受け9月20日に名大豊田講堂での記念演奏会に総勢45名でステージにのることができました。1,200名のお客様の前で、ちょっと緊張しましたが私たちの演奏ができたのではないかと感じております。名古屋男声の方々、まっすぐに合唱に向き合っておられ私たちも良い刺激をいただきました。京大合唱団の今までの活動があったからこそのご縁をこれからも大切に行きたいと思っております。たくさん懐かしいお顔も拝見することができましたので、また合唱団の輪が広がっていくことを願っております。 梅景 憲子(S51)

名古屋の味の再現にも挑戦

9月20日、名古屋大学豊田講堂で名古屋男声、京大合唱団同窓会2つの合唱団の合同演奏会があり、45名で参加しました。最新機能を備えた立派なホールで、当日1,200席は超満員。京大合唱団の先輩も名古屋近辺はもとより東京、金沢など遠方からも駆けつけてくださり懐かしいメンバーとお会いできました。そんな中でどの演奏も年齢を感じさせない熱のこもったもので、会場から暖かい拍手を受けました。それぞれのステージについては打ち上げ会で盛り上がっていたので心のこもったお料理について少し。中央卓にあるオードブルは新鮮で美しく盛られ、出席者のアルコール量があがり上がった筈です。外周りの作り立ての握りずしはシャコや蟹身もあり大人気。名古屋のきしめん、八丁味噌で煮込んだおでん。おいしかった。名古屋男声の方からこの味噌は渋いのではなく甘い。京都の白みそはむしろ塩辛いと話され何だか納得。2日後、家で作りましたがあの大鍋の味はでませんでした。卒団50年、殆ど休まず歌い続けレバはどんどん増え、今年も小さなステージが後3つ残っています。どうか若いメンバーに入団していただき長く存続してほしいと願っています。お世話になった皆様、ありがとうございました。 前田 良子(S39)

お知らせ

東京演奏会にむけて

来年、平成27年の10月24日(土)、東京の大田区民プラザ(定員509人)で、京都の同窓会合唱団と東京洛友ハーモニーの合同演奏会を開くことになりました。洛友ハーモニーが京都に出かけ、同窓会合唱団との演奏会に参加したことは、これまで2回ありますが、東京での合同演奏会は初めてです。というより、5年前に首都圏の同窓生とその家族で結成した東京洛友ハーモニーにとって、東京での初めての本格的な演奏会です。

洛友ハーモニーではこれまで毎年、7月の東京都合唱祭に出演し、荻久保和明作曲「季節へのまなざし」の中から1曲ずつ歌ってきましたが、今回初めて全曲通して演奏します。ぜひたくさんの方に楽しんでいただける演奏会になるよう、京都の皆さんとも力を合わせて準備を進めていきたいと思っております。またこれを機会に、ぜひたくさんの方に洛友ハーモニーにご参加いただければ大変うれしく思います。お待ちしております。

東京洛友ハーモニー 織田 一範(S47)

京大合唱団の活動を文書・楽譜・写真・音源等で記録保存するプロジェクト

京都大学大学文書館が重要な活動を開始しました。「公文書管理法」に基づく京都大学の歴史に係る「特定歴史公文書等その他」資料の収集、整理、保存、閲覧及び調査研究などを行う活動であります。京都大学の歴史を系統的に示す資料の整理・保存・閲覧がおこなわれると同時に、卒業生や元教職員など京大に関わる個人やクラブ・サークルなどの団体所蔵の資料も、「特定歴史公文書等」として整理、公開を行っています。この呼びかけに京大合唱団として積極的に参加したいと思っております。先輩長老に相談しながら古い歴史の整理と若い同窓会メンバーと現団の担当者と一緒に、プロジェクトチーム「京大合唱団」を結成し、系統的な資料収集を始めたいと思っております。どのようにチームを結成するか、ボランティアでどなたが参加協力いただけるか、幹事会で検討を始めることになりました。また、文書・楽譜・写真・音源などの系統的整理と閲覧方法など、チームで検討することになります。チーム結成に参加いただき、先輩長老と交流を深めて頂く素晴らしい機会にしたいと思っております。

会長 松井 三郎(S41)

編集後記

ノーベル賞の賑わいのなか、名古屋がまぶしい。

9月20日の名古屋男声10周年記念コンサートにお招き頂き、駆け付けた私たち同窓会合唱団も、10年を経ている。遠くて近いのか、近くて、遠いのか、豊田講堂にたどり着いた時の、心のささえは、やはり、近衛の学生集会所、100年のあのBOXを知るOBのみなさんだった。

演奏会の雰囲気初めから温かく、お祝いムードたっぷり。「夜の歌」の全員合唱でおひらきだったが、女声は、2階席からステージの男声に歌いかけるといふロマンチックな演出。やっぱり女声、男声、混声どれもいい。3形態を併せ持つことの幸いを思った。

男声合同の多田武彦作品、ことに「父のある庭」の50年余歌いこんできたハーモニーは、父という存在の現(うつつ)や自らのいま(父、祖父とかいう立場)の違いを越えて思わずこみ上げてくるものが滲み出て、その場をみたくかのようなようだった。打ち上げも盛大、かつ和やかに進められたが、リクエスト曲の「バリ若」の大合唱こそは、あの頃の腕まくりの名大生、詰め襟学生服の京大生そのもののようなようだった。「持ち場を渡すな！自由守れ！」

年の瀬へ加速する、忙しさのなか、歌いながら、守りたいものは何だったか、その今昔に思い致しつつ、大きな来年を展望したい。

石動 敬子(S48)

★ 同窓会通信は同窓会全体の主要な動きを会員にお知らせするとともに、会員相互のコミュニケーションを図ることを目的にしています。皆様の積極的な投稿を歓迎します。

送信先：✉ kucdosokai@gmail.com Fax：☎ 075-241-4933